

新冠百話

第九十三話

「新冠温泉事情」(要約文)

新冠には古くから温泉場が複数あった。火山帯ではないので冷泉だが、これを沸かし湯にして人々は利用してきた。その歴史を紹介したい。

●無名温泉と砂金掘り

明治時代、高江と節婦の間に泥火山からの湧水を沸かした温泉があった。この近くで砂金掘りが盛んに行われており、一攫千金を夢見た人たちの憩いの場所であった。

●前田温泉

大正八年頃、新冠と静内の境界付近に湧水を沸かした温泉があった。白髪の老婆が一人住んでいたという。交通機関の無かった時代、多くの人がここで足を癒したと伝わっている。

●節婦稲荷温泉

大正十五年、節婦稲荷神社が建立された。建立者は夢でお告げを受け神社を建てたという。また、近くの沢の水が温泉に適するともお告げがあり、泉質を調査し稲荷温泉と称したと記録がある。

●大東温泉と黒大工

昭和十年頃、道路側に窓が無く湯気抜

き屋根のかかった建物が節婦にあった。ここに男が住んでおり、色黒で手先が器用だったことから黒大工と呼ばれていたという。

●姉去温泉

大富にある溪流の上流に泉源があり、これを沸かし湯にして付近の人は利用したと伝わっている。

●判官館温泉

昭和三十年頃、観光開発として試掘と地下水の分析が行われた。泉源が町民の保養施設として利用されたが、その後この場所にユースホステル(現在は廃業)を建設することに方針変更された。

いずれも現在に残っていないが、平成十年にレ・コードの湯がオープンし、町の温泉として親しまれている。



判官館温泉跡 (旧ユースホステル付近)

あなたの119番通報で救える命(通報時のポイント)

「何が・どこで・誰が・どうしたか」などの通信員の質問に
落ち着いてゆっくり正確に伝えることが大切です。
 通報者の氏名、電話番号も確認させていただきます。
 (再度、消防から詳細の確認連絡がある場合があります。)
 消防署新冠支署

戸籍の窓

8月6日～9月5日までの届出分(敬称略)

●いつまでもお幸せに

川村 慎 ♡ 鹿島 寿 東 町
 伊藤 航 ♡ 阿部 里英 中央町

●お誕生おめでとうございます

福嶋 里都(竜太 千夏) 中央町

●おくやみ申し上げます

三澤 松栄 86歳 大 富
 佐々木 基子 63歳 北星町
 向井 成司 93歳 大狩部
 椎名 徳次 78歳 新 和
 小田島 克彦 56歳 太 陽

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
 ☎ 0146・47・2112

町公式ホームページ 町公式フェイスブック



人のうごき

(令和8年8月末現在)

人 口 4,918 人 (前月比 + 20 人)
 男 2,526 人 (前月比 + 15 人)
 女 2,392 人 (前月比 + 5 人)
 世 帯 2,849 世帯 (前月比 + 18 世帯)